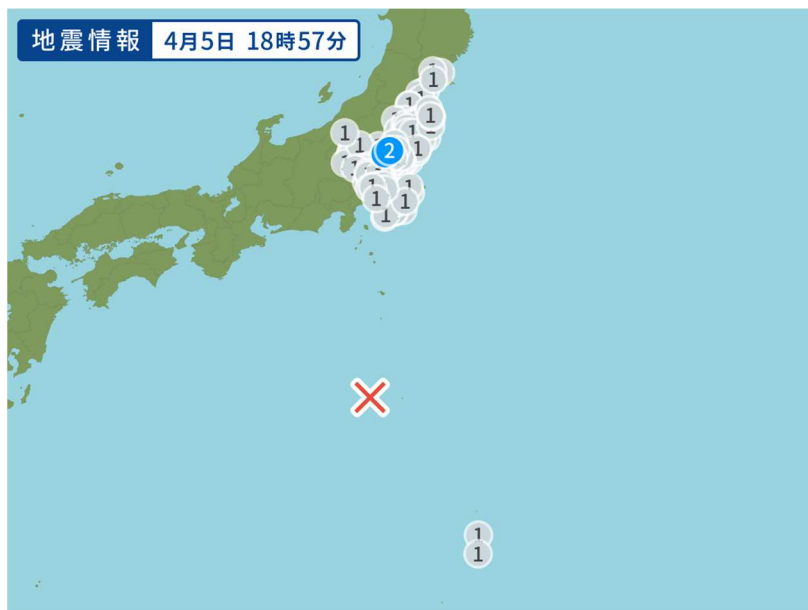


『異常震域』という現象をご存知ですか？

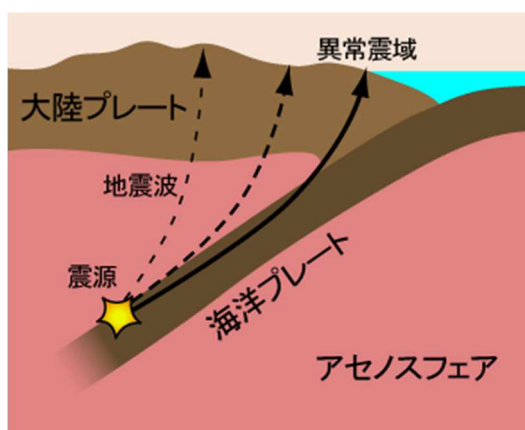
4月5日に関東地方を中心に震度1から2を観測した地震がありました。この地震の震源は伊豆諸島の鳥島近海でマグニチュードは5.9というものでした。揺れそのものは、問題の無いレベルですが、どこが揺れたかと言いますと、震源に近い伊豆半島などでは全く揺れず、かなり離れた東北で有感地震となっています。

このような現象を『異常震域』と呼んでいます。つまり震源地に近いところではなく、離れたところでより大きく揺れるという現象です。



それではなぜこのような現象が観測されるのでしょうか。これは沈み込む太平洋プレートの性質が大きく関係しています。これは沈み込む太平洋プレートというものが、周囲のマントルより硬く、地震波の減衰が少ないためなのです。また異常震域は深さ400kmとか、500kmという極めて深い所で発生した地震（深発地震）で観測される現象です。5日の地震も深さ420kmで発生しました。

下の図は異常震域を説明する模式図です。地震波が選択的に沈み込むプレートの内部を効率的に伝搬する事により、震源の真上より、遠く離れた所で大きく揺れが観測されるのです。

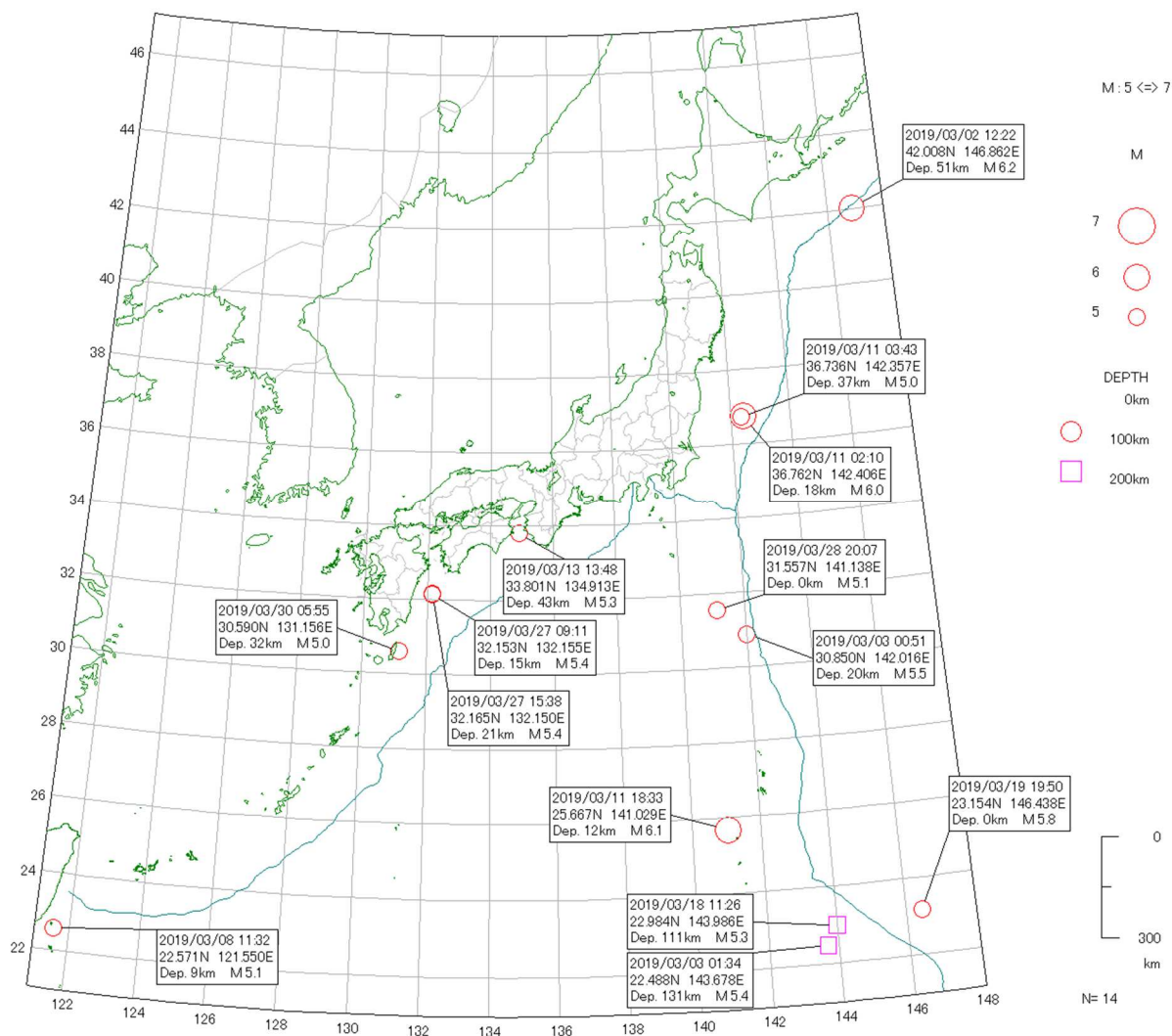




2019年3月の地震活動概観

日本およびその周辺地域の3月の地震活動です。下の図は3月に発生したマグニチュード5以上の地震をすべて図示してあります。3月はこれまでと違い、少し地震活動が活発であった印象を強く受けます。その理由として、南海トラフ沿いでマグニチュード5を超える地震が紀伊水道や日向灘で4個発生しました。これは“4個も”と言えるレベルの極めて稀な出来事でした。

2019 3/1 0:0 -- 2019 3/31 23:59

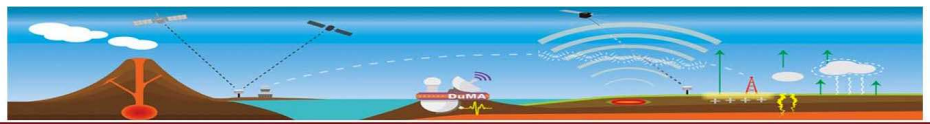


さらに太平洋プレートの沈み込みに起因する地震もマグニチュード6を超える地震が3個発生していましたが、これは非常に珍しいというレベルには至っておりません。

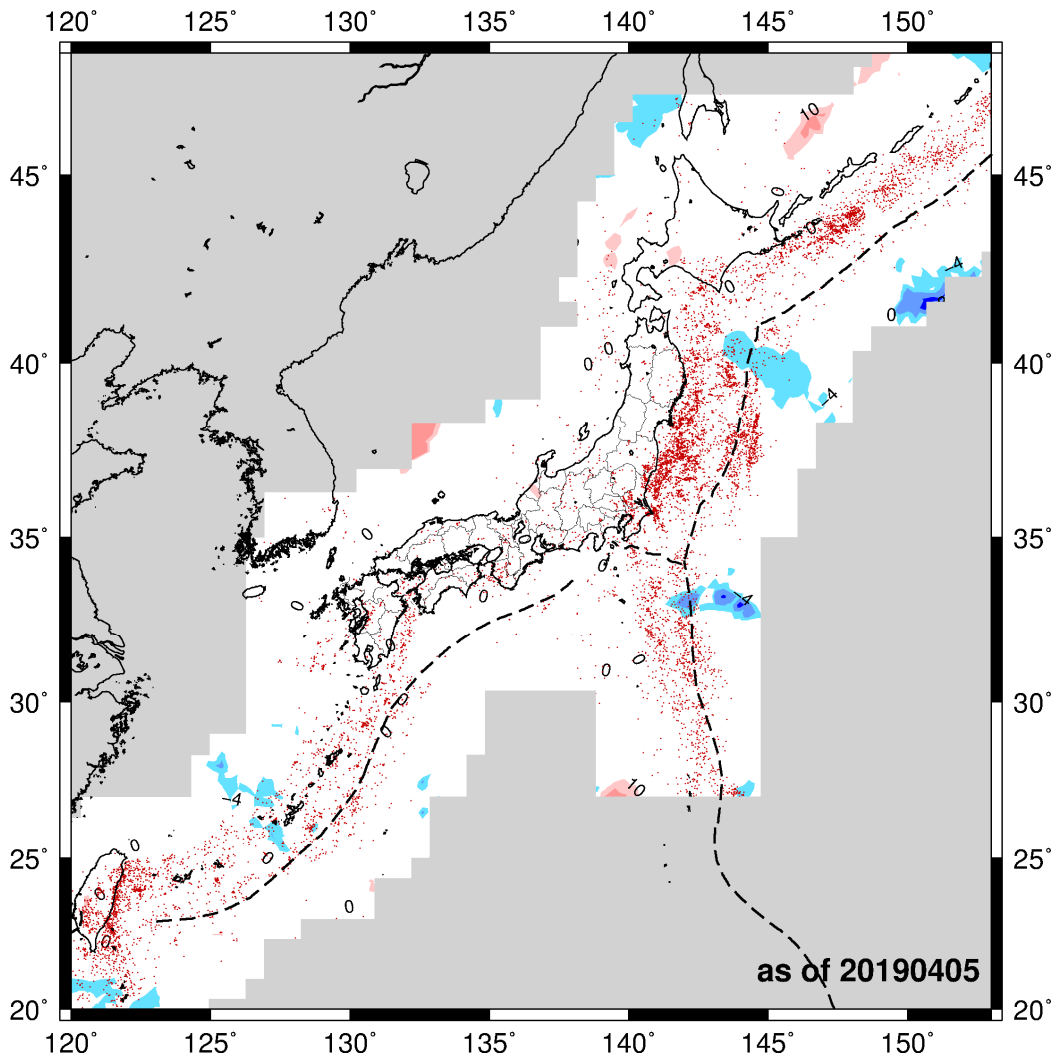
日本およびその周辺の広域地下天気図®

今週は3月4日に引き続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。主に海域で発生するマグニチュード7以上の地震を対象とした解析です。

今回もLタイプの地下天気図をお示します。



先月とそれほど状況が変化していない事が確認できました。現時点では大きな異常は出現していないと判断しています。



参考までに、前回お示した2月28日時点の地下天気図を下に示します。

